

京都に春の訪れを告げる 阿含の星まつりを開催

立春を迎えながらも厳しい寒さが身に染みる2月の京都。そんな底冷えのする寒さを吹き飛ばすかのよう
に、毎年この時期に京都の街を賑わす「阿含の星まつり」が、今年も盛大に行われた。

巨大な護摩壇から立ち昇る炎に象徴されるこの祭りは、京都の観光がイドブックなどにも紹介されており、毎年海外からも多くの観光客が訪れるという京都の風物詩のひとつ。地元・京都の人たちの間では「炎の祭典」とも称されている。

ただし、昨年からは新型コロナウイルス蔓延防止の観点から、星まつりの会場である阿含宗本山への入山者数を絞っている。それでもこの日、まだ夜も明けきらぬ薄暗い早朝から多くの老若男女が星まつりの会場へと続く参道を登ってゆく。参道の入り口には検温所が設けられており、体温チェックをパスした人だけが会場で折ることができる。

そこかしこでマスクを着けた山伏姿の修行者たちの「お帰りなさいませ」という声に迎えられながら、参

拜客や修行者たちは心静かに参道を進む。「阿含の星まつり」の会場で祈りを捧げ、切なる願いや祈りを神仏へと届けるために。

世界中の人々が見守る中 開祖のご聖骨が結界へ

午前8時過ぎになると、阿含宗本山総本殿・釈迦山大菩提寺前に山伏姿の修行者たちが集結。やがて、向拝下の正面扉が開き、阿含宗開祖・桐山靖雄大僧正の眞身舍利（ご聖骨）を戴く御輿が姿を現す。

桐山大僧正は遷化（高僧が逝去して、教化の場を遷されること）されたが、そのご聖骨である「開祖眞身舍利」は結界内の祭壇中央に奉安されることで比類なき法力・霊力を振るい、大導師として星まつりを導くのである。その力を受けて導師を務めるのが阿含宗本庁理事長・和田靖壽中僧正、阿含宗本山・清川靖法少僧正（ブータン法名・ジグメ・テンジン）のふたり。向拝下の階段を降り、素戔嗚神社への参拝が終わると、いよいよ「阿含の星まつり」が始まる。

多くの参拝客や修行者たちが「開

祖眞身舍利」をひと目見ようと総本殿前に集まり、固唾をのんで出立の儀式を見守る。行列を成す山伏たちに導かれ、御輿はゆつくりと結界へと進む。その厳かな様子は参道に設置されたカメラや上空のドローンによって捉えられている。なかなか終息しないコロナ禍を受けて、祭りの様子は日本全国、全世界の阿含宗本部へと生中継されるほか、一般の参拝者たちも阿含宗のサイトからインターネットを介して参拝できるよう配慮されているのだ。



普段は阿含宗本山総本殿・釈迦山大菩提寺に奉安されている開祖のご聖骨「開祖眞身舍利」が、山伏たちに導かれて結界へ降り立ち、星まつりを導く。

三基の巨大な護摩壇に 人類救済の御聖火が灯る

結果の奥には巨大な祭壇が設えられ、仏教の総本尊であるお釈迦さまのご聖骨「眞正仏舍利尊」や、ブータン仏教伝来の「大曼荼羅（トンドル）」などが祀られる。

その中央に桐山大僧正の「開祖眞身舍利」が奉安されると、結界内に神仏両界冥合の妙なる空間を出現させるための儀式が執り行われる。まず神職の神事により、結界に八百万の神々が降臨される。さらに、阿含舞楽「三人舞 天空に捧ぐ」を奉納。そして、山伏問答、護身法、斧作法、法弓作法、宝剣作法など、修験道の



世界の人々の願いや祈りのこめられた約2900万本の護摩木を、山伏たちが手分けをして投げ込む。護摩木に込めた思いが、紅蓮の炎となって神仏へ届けられるのだ。

古式ゆかしい柴燈護摩作法が行われ、最後に世界平和、国土安穩、家庭円満などの成就を願う「願文」の奉読が行われた。

期待と緊張で張り詰めた空気の中、巨大な松明に火が灯される。この火は桐山大僧正が会得した、念力によって生木に火をつけて護摩を焚く密教の秘法「念力の護摩」の浄火の法による神力を加えた「人類救済の御聖火」である。この御聖火こそが、人間の業や因縁を完全に断ち、願いを神仏へと届けてくれるのだ。

結果を取り巻く人々が静かに見守る中、大松明に灯された御聖火に清川少僧正が「エイッ」と気合を込めて九字を切ると、二基の護摩壇へと



古式ゆかしい柴燈護摩作法に続いて「願文」が奉納されるとまつりの会場は水を打ったように静まりかえる。清川少僧正が「エイッ」と気合を込めた九字を切ると、「人類救済の御聖火」が護摩壇に灯される。

点火された。

直径11メートル、高さ7メートルに及ぶ世界最大級の巨大な護摩壇があつという間に白煙に包まれ、その隙間から炎がチラチラと顔を出す。結果を取り巻く厳肅な空気は一変し、勇壮な阿含宗修験太鼓と山伏たちの読経が響き渡る。静から動へ。まつりの空気が躍動を始める中、護摩壇からは人々の願いや祈りを神仏へと届ける紅蓮の炎が立ち昇る。

宵に一日だけ出現する 圧倒的なパワースポット

「阿含の星まつり」が毎年この時期に開催されるのは、2月初旬が旧暦の年始で人の運命の節目にあたるからだ。「星まつり」は「星供養」とも言われる密教の秘法のひとつで、個々人が生まれながら持つ運命の星（本命星）と、毎年巡ってくる運期の星（当年属星）を供養して一年の幸運を祈る。「阿含の星まつり」では、この密教の秘法を修験道の柴燈護摩によって行うのだ。

ただし、通常の柴燈護摩は一基の護摩壇で営まれるが、「阿含の星まつり」では阿含宗開祖・桐山靖雄大



ブータンで修行を積んだ清川靖法少僧正により、最強の靈力を誇るとされるブータン仏教様式「七仏最勝護摩修法」「息災秘法特別加持」が行われる。

「息災秘法特別加持」が営まれ、また修行者や参拝客が結界に降り立ち、自ら護摩壇へ護摩木を投げ入れる「結界内護摩木投入ご祈願」も行われる。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス蔓延防止対策として、本山への入山を制限した代わりに、修行者に向けては国内外61ヶ所の阿含宗



結界の四方・中央・鬼門へ弓を射る法弓作法は女性修行者によって取り行われる。

道場へ星まつりの様子を生中継し、一般の参拝客も星まつりの様子をダイジェストで楽しむことができる映像を、阿含宗のサイトにアップしている。感染のリスクが伴う移動を避けながら、それぞれが自由な場所から祈りを捧げることができるように工夫が凝らされている。



星まつりの中心を成す結界を取り囲む参拝通路。新型コロナウイルス蔓延防止の観点から、人々は間隔を開けて祈りを捧げる。

僧正が体得した「神仏両界の秘法」により巨大な二基の護摩で焚き上げる。祭壇に向かって右側が先祖供養の「仏界壇」で、左側が祈願成就の「神界壇」となっている。つまり、「阿含の星まつり」は、神仏のご加護を同時に賜うことができる場所なのだ。

加えて、強い財運・福運を備える恵比寿さまと大黒天さまを祀る恵比寿大黒天神社や、天照大御神の弟神で日本の国開きという大業を成し遂げた素戔嗚大神を祀る素戔嗚神社、強力無比な靈力を誇るブータン仏教法要堂、世界平和を祈るための仏舎

完全仏教である阿含宗は 世界平和のために祈り続ける

人間のカルマ（悪業）を断ち切る「人類救済の御聖火」で人々の祈りを神仏へと届ける「阿含の星まつり」。多くの神仏の力を賜うことができるのは、阿含宗が「完全仏教」であり、さらに開祖・桐山大僧正が「神仏両界の秘法」を体得したからだ。仏教には、中国や日本に伝わった



日本各地だけでなく世界各地から届けられた護摩木。一人ひとりが異なる願いや祈りを込めた護摩木は御聖火で焚かれ、神仏へと届けられる。

利塔や聖地エルサレムから贈られた獅子の像など、さまざまな「祈りの場」が開放される。

また、普段は拝観できない阿含宗本山総本殿・釈迦山大菩提寺の本堂に入ることができるよう、本堂には中国道教の秘仏でそれぞれの生まれ年ごとの守護神である「六十星宿守護神将」も特別に拝観できる。

まさに一年でその一日だけ、阿含宗本山全体が幸運と福運に溢れる唯一無二のパワースポットとなるのが「阿含の星まつり」なのだ。

結界の中では高僧により 人々の願いが神仏のもとへ

山伏姿の修行者による太鼓と読経が響く結界内では、全世界から届けられた護摩木が次々と二基の巨大な護摩壇に投入される。それぞれの護摩木には、一人ひとり異なる切なる願いや祈りが込められている。それが護摩壇に投入されることで、願いや祈りが炎となり、まっすぐに神仏へと届けられてゆく。

そんな躍動する結界周辺が、ふと静まり返る瞬間がある。それが、阿含宗開祖・桐山靖雄大僧正による霊

北伝仏教、スリランカやタイなどの南伝仏教、チベット・ブータンに伝わった東伝仏教という3つの系統がある。阿含宗はもともと釈迦が唯一直接説いたとされる『阿含経』と、その「成仏法」を核としている。それに北伝・南伝・東伝それぞれの仏教を総合して「完全仏教」へと昇華させた。さらに、阿含宗開祖・桐山大僧正は1993年に伊勢神宮の遷宮に合わせて神仏両界大柴燈護摩供を奉



大人の修行者たちとは異なるフレッシュな若草色の山伏姿が目を引くYAN (Young Agama Network)。阿含宗では若者たちが生き生きと活躍している。



阿含宗の魚籃観音は、海や水に関わるあらゆる災難を消滅させ、福運（財運）を招来する力を持つ守護仏である。



可愛らしい声で元気いっぱいに阿含宗修験の意義を説く子供山伏問答。山伏姿に身を包み、一生懸命な子供たちの姿に参拝客たちからも笑顔がこぼれる。

修し、神仏両界の秘法を体得。2010年にはブータン仏教から「無上瑜伽タントラ」の秘法を受けて霊力の面でも完全となった。その唯一無二の宗教団体である阿

含宗が目指すのは、恒久的な世界平和である。その実現のため、阿含宗は世界各地で平和を祈念する護摩法要を営んでいる。たとえば、アウシユヴィッツやシベリア、ガダルカナル、沖繩、広島、長崎など多くの人が戦争の犠牲者になった場所や、同時多発テロが起こったニューヨーク、東日本大震災の被災地など。各地で護



星まつりの日だけ特別に公開される道教の秘仏・六十星宿守護神将。参拝客や修行者たちは自分の生まれ年を司る守護神に祈りを捧げる。



天照大御神の弟神にして日本の国開きに力を尽くした素戔鳴大神を祀る素戔鳴神社では、障魔降伏、厄災退散のご加護を得られる。



20世紀最大の日本式寺院建築である阿含宗本山総本殿・釈迦山大菩提寺。星まつりの日だけは特別に総本殿内を拝観できる。

摩法要を営むことで、失われた魂を救済し、二度と同じような犠牲者が出ないようにと祈り続けている。世界中がコロナ禍に見舞われた昨年は「富士山大柴燈護摩供」と「出雲大柴燈護摩供」を奉修し、魂の救済とカルマの消滅を祈った。

あいにくの雨模様にも関わらず、護摩壇に灯された「人類救済の御聖火」は高く燃え盛り、日本全国・世界各地から届けられた護摩木を焚き上げた。人々が護摩木に込めた切なる祈りや願いは、まっすぐに神仏へと届けられたことだろう。